

「生乳」のお話

生乳とは、乳牛から搾ったままの、何も手を加えていない乳のことです。酪農家の一番の仕事は、この生乳を作ること。毎日、愛情を持って乳牛の世話をし、子牛を産んだ母牛から生乳を搾っています。

◆自然の影響を受けやすい酪農と生乳の需給

生乳の生産は、暑さで乳牛の体力が落ちる夏場は減少し、冬場には増加します。一方、生乳の需要は、牛乳向けを中心に夏場は増加、冬場は減少と、逆の傾向にあります。このアンバランスに対応するため、酪農や乳業の関係者は需要と供給の調整（需給調整）を行っています。

まず、消費地である都府県の牛乳需要に対応するため、年間を通じて大型高速船や鉄道などを使い、主産地の北海道から都府県に生乳を輸送しています。夏場の牛乳の需要期には、輸送量を最大化して牛乳製造を行います。一方、冬場から春先の不需要期には、生乳生産が牛乳需要を上回るため、保存性が高い脱脂粉乳、バターなど乳製品を多く製造します。

しかし、近年の酷暑により、需要期に生乳生産量が想定以上に減少する一方で、牛乳需要は増加することがあります。

さらに、多発する台風・地震などの自然災害



のため、被災した酪農家や乳業工場において生乳廃棄が発生したり、北海道からの船が欠航し都府県への生乳輸送がストップしたりするなど、関係者の努力だけでは解決できないような事案が多発しています。

一方、世界の牛乳・乳製品生産量は、8億t以上（生乳換算）あります。そのほとんどは、それぞれの自国内で優先的に消費され、輸出に回るのは1割未満。輸出国も数カ国に限られます。

酪農が気象の影響を受けやすいのはどこの国も同じ。干ばつなどで、いずれかの国の輸出が減ると国際価格は急騰します。さらに近年、世界の人口増加などにより需要は増えていて、中長期的に不足気味な状況が続くと見込まれます。

牛乳向けの生乳需給（都府県）

